

なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学ぶとは？ ～自分事として捉え、考える～

【実践者】

氏 名	水澤 真也	学校名	新潟県聖籠町立山倉小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	6年2クラス（56名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和5年11月15日～12月1日（5時間）		

実施概要

01 実践する教科・領域

社会

02 単元名と単元目標

単元名：なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学ぶとは？ ～自分事として捉え、考える～

単元目標：パラグアイの文化や生活、教育の現状を通して、課題を自分事として捉え、課題解決に向け、自分の考えをもつことができる。

関連する学習指導要領上の目標：

- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

03 単元の評価規準

①知識及び技能	パラグアイの文化や生活、教育の現状を通して、お金の使い方や価値を理解するとともに、伝統工芸の価値や可能性、教育の意義を見いだすことができる。
②思考力、判断力、表現力等	パラグアイの各分野で抱える課題を自分事として捉え、自分なりの解決策を考え、発言したり記述したりしている。
③学びに向かう力、人間性等	世界の国の課題に興味関心をもち、進んで調べようとしたり、考えようとしたりしながら学習活動に参加している。

04 単元設定の理由・単元の意義

〈理由〉

子どもたちは、授業で世界の国のことを学んだり、日々のニュースや記事などから、たくさんの情報に接したりしているが、他の国の出来事を知ることがあっても、自分達の生活とは関係ないこととして「無関心」になり、受け流してしまいがちである。しかし、日本は世界の国々と密接につながっており、それぞれの国が抱える課題を「自分事」として捉え、課題解決に向けて考えていくことが、これからの時代を担う子どもたちにとって必要不可欠な資質・能力であると感じ、本単元を設定した。

〈単元の意義〉

自分達が住んでいる日本と、世界の国々は密接につながっており、世界の個々の国の課題がひいては日本の我々の課題として生活に関わっていることに気付かせるとともに、パラグアイの文化や生活、教育を扱う本単元の学習によって、「自分事」として捉える視野をもたせ、自分の考えを表現できる力を身に付けさせたい。

〈児童／生徒観〉

6年生の児童は、様々な分野に興味関心をもって元気闊達であるが、個々で自分の意見を発表するのは控えめで、どちらかといえば、人の話を聴きながら友達と協力して課題を解決しようとするグループ学習が好きな傾向がみられる。私は昨年、彼らが5年生のときに社会科を担当していた。特に世界の地理を扱った単元では、地球儀や地図帳を使いながら、世界の国々の文化や生活等について思いをはせ、好奇心旺盛に学ぶ姿が印象的であった。今回の実践にあたり、事前に学校の廊下に展示したパラグアイの写真や伝統工芸の実物などに触れ、授業開始前から興味津々の様子である。

〈指導観〉

本単元にあたり、子どもたちは興味関心こそあれ、知識についてはほとんど持ち合わせていない0の状態からのスタートになると想定されるため、1校時目でまず、「JICA とは何か？」から授業を行っていく。また、「自分事」をテーマにしているので自己開示が不可欠であることから、授業開始時に子どもたち同士で座席の班ごとに自己紹介のアイスブレイクを行う。その後、授業者の自己紹介も1校時目に盛り込み、緊張をほぐしながらその後の学習への興味関心をもたせたい。2校時目からパラグアイの内容に本格的に入っていく。最初に「なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学ぶとは？」について発問し、子どもたちの現状の考えについて個別に記述させてから、パラグアイの概要について見ていく。その後、3校時目の「金融教育」、4校時目の「伝統工芸ニャンドゥティ」の授業を経て、5校時目（本時）に再度「なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学ぶとは？」について問い直す。班ごとに意見を出し、話し合いながらまとめ、全体発表を行う。友達の様々な意見を聴きながら学習に取り組み、課題を「自分事」として捉えさせたい。最終的に課題を個に戻し、各児童の考えが当初の頃と比べ、どのくらい変容したか確認させるとともに、「教育の意義」について児童一人一人に明確な考えをもたせたい。

05 単元計画（全5時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	JICA って何だ ろう？	JICAが行っている海外協力隊の活動内容や、JICA教	① アイスブレイクで、座席の班ごとに自己紹介を行う。 ② JICAとは何か？自分たち	・JICA国際協力機構ホームページ ・自己紹介用プレゼン

		師海外研修について興味関心を高めることができる。	が抱くイメージについてタブレットのテキストに自由に記述し、提出する。 ③ JICA海外協力隊員の活動とJICA教師海外研修について概要を知る。 ④ 授業者の自己紹介及びJICA教師海外研修に参加した理由について知る。	テーション資料 ・A4用紙（アイスブレイクの自己紹介用） ・タブレット
2	パラグアイはどんな国だろう？	日本から見て地球の裏側に位置する、パラグアイの国の概要について知り、興味関心を高めることができる。	① 発問：「なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学ぶとは？」について、タブレットのテキストに自分の考えを自由に記述し、提出する。 ② スライドショーを通して、パラグアイの国の概要について知る。	・教師海外研修の現地研修で撮った写真、映像及び資料 ・伝統工芸のニャンドゥティ ・テルモ（マテ茶セット） ・パラグアイの現地通貨 ・タブレット
3	金融教育「おこづかいゲーム」を体験してみよう	「金融教育」のゲームを体験することを通して、自分の金銭感覚に気付くとともに、パラグアイ人の金銭感覚やJICA海外協力隊員がなぜ金融教育をパラグアイで普及させようと活動しているのか考え、自分の意見をもつことができる。	① パラグアイの「おこづかいゲーム」を説明する。 ② めあて「必要な買い物を済ませ、大切な人にプレゼントを贈れるだろうか？」を確認する。 ③ 班ごとに分かれ、ゲームを体験し、自分たちの金銭感覚について考える。 ④ パラグアイ人の金銭感覚を知り、JICAのパラグアイでの金融教育について話し合い、個々の意見を発表する。 ⑤ 今日の授業の振り返りをタブレットのテキストに記述し、提出する。	・JICAパラグアイ海外協力隊員考案のおこづかいゲーム ・模擬通貨 ・おこづかいゲーム用ワークシート ・タブレット
4	パラグアイの伝統工芸「ニャンドゥティ」づくりの課題とは？	パラグアイの伝統工芸をつくる職人の話から、正当な対価が受けられていない現状に気付き、生活を向上させるためには何が必要か考え、自分なりの解決方法とその理由を示すことができる。	① 伝統工芸のニャンドゥティについてその概要を知る。 ② ニャンドゥティづくりの匠のスニルダさんを取り上げ、ニャンドゥティをつくる期間とその対価、担い手不足の現状とその背景について知る。 ③ めあて「パラグアイの伝統工芸「ニャンドゥティ」の作り手である職人が、適正な対価を得て貧しさから脱するためにはどうしたらよいだろうか？」を確認	・教師海外研修の現地研修で撮った写真、映像及び資料 ・伝統工芸のニャンドゥティ ・ニャンドゥティの匠スニルダさんの写真と吹き出し ・課題解決に向けての手順

			認する。 ④ 班ごとに分かれ、まず個々の解決策を付箋紙に記述する。 ⑤ 班ごとに話し合った解決策について話し合い、そう考えた理由を学ボードに整理してまとめる。 ⑥ 学ボードを使用しながら全体発表を行う。 ⑦ 今日の授業の振り返りをタブレットのテキストに記述し、提出する。	・学ボード ・水性ペン ・付箋紙 ・タブレット
5 本時	教育を受けること、学ぶことの意義とは？自分事として捉えよう	今までの学習を振り返りながら「 なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学ぶとは？ 」の当初の発問について再度捉え直し、自分の明確な考えをもつことができる。	① 今までの授業の内容を時系列に振り返る。 ② 発問：「 なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学ぶとは？ 」を再度提示し、確認する。 ③ 班ごとに分かれ、教育の意義として重要なものは何か、まず個々の考えを付箋紙に記述する。 ④ 班ごとに話し合った考えについて話し合い、そう考えた理由を学ボードに整理してまとめる。 ⑤ 学ボードを使用しながら全体発表を行う。 ⑥ 全体発表を踏まえ、改めて自分の考えをタブレットのテキストに記述し、提出する。 ⑦ 今までの学習を通しての振り返りをタブレットのテキストに記述し、提出する。	・教師海外研修の現地研修で撮った写真、映像及び資料 ・課題解決に向けての手順 ・学ボード ・水性ペン ・付箋紙 ・タブレット

06 本時の展開（3時間目）

本時のねらい：今までの学習を通して、再度教育の意義について考え、「なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学ぶとは？」の問いに、自分の明確な考えをもつことができる。

過程・時間	○教員の働きかけ・発問および学習活動 () 指導形態	・指導上の留意点 (支援)	資料（教材）
-------	--------------------------------	------------------	--------

導入 (8分)	○今までの授業の内容を時系列に振り返る。(全体) ○2校時目に行った発問を再び問いかける。(全体) ・「なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学 ぶとは？」 ○本時のめあてと学習の手順を伝える。(全体) ・学ボードと付箋紙を配付する。 ・座席を班ごとに分ける。	・写真や掲示物、実物を見せ、学習内容を想起させやすくする。 ・授業の流れである「課題解決に向けての手順」を掲示する。	・教師海外研修の現地研修で撮った写真、映像及び資料 ・伝統工芸のニヤンドウティ ・ニヤンドウティの匠スニルダさんの写真と吹き出し ・課題解決に向けての手順
展開 (30分)	○付箋紙に自分の考えを記述する。(個別) ・付箋紙1枚につき、1つの考えを記述する。 ○書いた付箋紙を学ボードに貼り付け、班で出た意見を確認する。(班) ○出た意見をもとに、なぜそう考えたのか理由について話し合う。(班) ・水性ペンで線や矢印を引いたり、項目や補足事項、考えた理由を書いたりしながら適宜、学ボードで分類や整理をする。 ○班ごとにまとめた意見を発表する(全体)	・書くことに悩んでいる児童がいたら、板書や前時のタブレットの振り返り、教室掲示を参考にするよう伝える。 ・机間巡視しながら、児童から個別に受けた質問に答える。 ・発表は準備ができた班から順に行うようにする。	・学ボード ・水性ペン ・付箋紙
まとめ (7分)	○再度発問する。(全体) ・「なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学 ぶとは？」 ・今までの学習と本時の話し合いや全体発表を通して、自分自身の考えをタブレットのテキストに記述し、提出する。(個別) ・今までの学習を通しての振り返りをタブレットのテキストに記述し、提出する。(個別)	・教育の意義について、再度児童一人一人に捉え直させる。これから学習にどのように臨むとよいか考えさせ、自分の考えをもたせる。	・タブレット

	○記述した考えや振り返りを共有する。(全体)	・全体共有は時間があれば行う。	
--	------------------------	-----------------	--

07 板書計画



【課題解決に向けての手順】

- ① 付箋(ふせん)に自分の考えを書く。付箋1枚につき、1つの考えを記入する。
- ② 班ごとに学(まな)ボードに付箋を貼り、班で出た意見を確認する。
- ③ 班で話し合いながら、出た意見を、水性ペンを使いながら分類したり、順番にしたり、必要な補足事項を書き加えたりするなど整理する。
- ④ 班でまとめた意見を発表し、全体で共有する。

08 評価規準に基づく本時の評価方法

【知識・技能】

- ・既習事項を基に、教育の意義を見いだすことができる。

【思考・判断・表現】

- ・課題を自分事として捉え、自分の言葉で発言したり記述したりすることができる。

【関心・意欲・態度】

- ・班で協力し、進んで友達と関わりながら学習活動に参加している。

09 学校外との連携

にいがた NGO ネットワーク国際教育研究会 RING

- ・本単元の実践にあたり、単元計画や授業実践の指導案検討で多大な助言をいただいた。

10 学びの軌跡

【「なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学ぶとは？」の2校時目の児童の回答】

A 児：将来のためだと思います！

B 児：子どもの生きる力と社会性を高めて、将来しっかりと仕事についても追いつけられないようにするため？生きるために大切なこともあるから。

C 児：なぜ教育をうけるのか？…いい大人になるため？あなたにとって学ぶとは？…将来のため

D 児：社会に出るためにとても大切な事

E 児：将来立派な大人になるため。

【「なぜ教育を受けるのか？あなたにとって学ぶとは？」の5校時目（本時）の児童の回答】

A 児：私にとって学ぶ・教育とは、・受けた方が将来に役立つ・まずは自分のために勉強して、それを活かして人を助けることだと思いました。

B 児：私にとって学ぶとは…今日発表したように、知識・人間関係、人のため、将来のため未来のためで、生きていく力を持って知識を付けないと人間関係とか言葉も喋れない、今日みたいな発表もできないと思います。なので、私にとって学ぶとは、これからのこと今のことを考えさせるため。

C 児：将来・未来のためにでもあるし、人のため、お金・学校、知識・人間関係でもある。結論的には、生きるためだと思う。

D 児：自分自身が1人で生きていくためや将来のためにもなるし、自分以外の人を助けるためにもなると思いました。教育を受けることで、教育を受ける楽しさやお金について、海外についても分かるためだと思いました。

E 児：学ぶとは知るだけじゃなくて、教えたり共有できる。

※A～E 児は2校時目、5校時目ともに同一の児童である。原文を掲載。

11 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

教師海外研修では、「自分の意識が変わらないと、人も環境も変わらない」という言葉に出会い、心に深く響いた。この言葉から、物事を「自分事」として捉え、考えることの大切さに気付くことができた。また、研修の中で現地の様々な課題に直面してきたが、その多くは「教育」に起因していると感じた。このことから、「教育の意義」と「自分事として捉え、考えることの重要性」の2つのテーマを併せた実践を考え、授業を通して子どもたちに伝えたいと思った。

12 苦労した点

- ・今年度の自分は級外教員で、他学年の理科と書写の授業しか受け持っていないため、実践を行う際、実際に授業をする6学年の学級担任と細部に渡る日程調整を行う必要があった。
- ・パラグアイ研修参加者がチームに自分しかいなかったため、授業実践に向けた授業案作成の段階で、多様な視点からのアイデアをベースにすることが難しかった。
- ・今夏は特に酷暑が続いたため、学校行事の予定が軒並み延期・変更になり、そのための校務分掌にも追われたため、実践日を確定しづらかった。
- ・教育を受けたり学んだりする最終目的は、自分や自分が関わる人たちが幸せになるためだと思うが、子どもたちにこのことを気付かせることに苦労した。

13 改善点

- ・子どもたちの個々の考えや振り返りについて、深く掘り下げながら話を聴いたり、意見を出し合ったりする時間があれば、より多くの変容を見られたと思った。
- ・子どもたちに考える時間を与える前に板書でキーワードを書いてしまったため、考えが方向づけられてしまった可能性があった。板書を工夫し、子どもたちに自由な発想で考えさせてもよいと思った。

14 成果が出た点

- ・JICAとは何か、どういう組織か、子どもたちは興味関心をもって学び、国際理解や国際協力の素地を育むことができた。
- ・パラグアイの文化や生活について授業で触れることを通して、世界の国に興味関心をもたせることができた。
- ・黒板と学ボード、タブレット端末・ICT機器を交互に併用しながら効率よく授業を行うことができた。
- ・金融教育「おこづかいゲーム」を通して、お金の価値や使い方について考える機会を与えられた。
- ・授業を通じて、他国の課題に関心を持ち、課題解決に向け自分の考えを持ち、他者に伝えることができた。
- ・なぜ自分たちは教育を受けるのか、なぜ学ぶのか、について考える機会を与えられた。

15 自由記述

「自分事」をテーマにパラグアイ、ザンビア双方のメンバーが集まってチームを結成し、授業実践計画を考えてきた。パラグアイからのメンバーは自分一人であったが、チームの人達は親身になって協力してくださり、本時の授業実践にも遠方から駆け付けていただいたことは誠に感謝の念に堪えない。教師海外研修で得た、人とのつながりは、私にとってかけがえのない財産になった。

今年度の教師海外研修では、参加者はパラグアイ、ザンビア両国で様々な課題に直面し、その原因について考え、学び、そして多くの課題は教育の不足・欠如にあると結論付けた。この経験をそれぞれの学校で子どもたちに直接伝え、彼らの人生における視野を微力ながら広げることができたことは教師冥利に尽きる。

本研修で得たたくさんのことを、今後も授業を通して子どもたちに還元し、よりよい社会の実現に向けて貢献していきたい。

参考資料

- ・JICA国際協力機構ホームページ
- ・今年度のJICA教師海外研修パラグアイ現地研修時、JICA海外協力隊パラグアイ派遣隊員が、第8065サン・エンリケ・デ・オソ小学校の児童を対象に授業実践した「おこづかいゲーム」による金融教育